

プロロジス、スタートアップ企業支援で つくば市と協定を締結

～ 物流施設併設のインキュベーション施設を初開設 ～

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役会長 兼 CEO:山田 御酒)は、10月14日に茨城県つくば市(市長:五十嵐立青)と、つくば市のスタートアップ推進に関する協定を締結し、同日、つくば市役所内において協定締結式を執り行いました。



■ 協定概要と「inno-base TSUKUBA(イノベース ツクバ)」について

プロロジスとつくば市はこの度、「つくば市とプロロジスとのスタートアップ推進に関する連携協定」を締結しました。これは、つくば市のスタートアップ推進に関し、両者が相互に連携し、互いの持つ資源を活かした事業に協働して取り組むことにより、つくば市における地域社会及び地域経済の持続的な発展に寄与することを目的とした取り組みです。

連携協定の主な内容

- 「つくば市スタートアップ登録制度」登録企業の「inno-base TSUKUBA(イノベース ツクバ)」の利用
- 「inno-base TSUKUBA(イノベース ツクバ)」利用者のつくばスタートアップパークの利用の特例
- 連携イベントの実施
- 実証実験の協力

プロロジスは、2023 年に竣工予定の「プロロジスパークつくば 3」の敷地内に、オフィス、シェア倉庫、さらには実証実験エリアを備えたインキュベーション施設「Inno-base TSUKUBA(イノベース ツクバ)」を初開設します。同施設は 2023 年 4 月に開所予定で、物流施設に併設して、スタートアップの事業成長にも寄与する小型オフィス・実証実験エリア・シェア倉庫をあらかじめ整備し、提供するのは当社では初めての取り組みです。

「Inno-base TSUKUBA(イノベース ツクバ)」の企画・運営は、起業支援のプロフェッショナル集団として数多くの実績を持つ株式会社ツクリエ(本社:東京都千代田区、代表:鈴木 英樹)に委託し、物流業界のみならず、最新技術の実証実験や新製品の評価・検証の場所を必要とするアーリーステージのスタートアップ企業の利用を促します。

なお、「プロロジスパークつくば 3」は株式会社ZOZO(本社:千葉県千葉市、代表取締役社長兼 CEO:澤田 宏太郎)の専用(BTS 型)物流施設として賃貸借契約を締結しており、物流拠点「ZOZOBASE つくば 3」として、満床で稼働開始予定です。



↑「Inno-base TSUKUBA」完成予想パース(左:実証実験エリア・右:共用ラウンジ)

「Inno-base TSUKUBA」の WEB ページ www.inno-base.prologis.co.jp

■ 協定締結の背景

プロロジスは、これまでも、カスタマーサービスの向上および業界が直面する課題への挑戦を目的に、コンサルティングサービスや、DX(デジタルトランスフォーメーション)による物流効率化支援などの顧客の課題解決に寄与するソリューションを提供してきました。つくば市との協定締結を通じて、業界に革新的な変革をもたらす可能性のあるスタートアップ企業に対し、よりビジネスの現場に近い環境で開発ができる場所を提供することで、事業の早期立ち上げを支援し、顧客の事業伸長に貢献する新たなイノベーションの普及を加速させてまいります。

なお、プロロジスは米国本社においても、ロジスティクスに革命をもたらす新たな技術と顧客の橋渡しをするための研究開発チーム「Prologis Labs」を結成し、最先端技術を有するスタートアップ企業に稼働中の物流施設内での技術検証、評価、応用研究など、さまざまな機会を提供しています。

また、2016 年に創設した「Prologis Ventures」を通じて、ベンチャー投資や新しいビジネスモデルの企業支援を循環させることで顧客主導のイノベーションを推進し、顧客の課題解決とグローバル・サプライチェーンの変革に寄与することを目指しています。

■ 「プロロジスパークつくば 3」の開発地

「プロロジスパークつくば 3」の開発地は、圏央道と常磐道のクロスポイントに位置しています。圏央道「つくば中央」IC からわずか 2.0 km、常磐道「谷田部」IC から約 5.8 km の地点に立地しているため、北関東方面への配送に加えて、圏央道を利用して都心部を経由することなく東西広域および東日本全域をカバーすることが可能になり、広域戦略拠点としても活用可能な物流適地です。

(次頁に続く)

つくばエリアの中心駅であるつくばエクスプレス線「研究学園」駅より約 1.3 kmと通勤利便性にも優れています。また、浸水や液状化の可能性が極めて低く、周辺に活断層がないことから、事業継続計画（BCP）の観点からも優れた立地です。施設計画としても、非常時の発電機燃料として地下に大型オイルタンクを備える予定です。地下オイルタンクの設置により、防災センターや入居企業の事務所エリアなどへ最大約 7 日分の電力供給が可能となり、供給量が大幅に向上します。備蓄燃料は、震災等による停電時に、施設入居企業へ提供するほか、プロロジスが運営する周辺の物流施設への移送も想定しています。さらに、断水時にも約 30 日間トイレが使用できるよう給水設備を整える予定です。

なお、プロロジスはこれまでに、つくば市内において株式会社 ZOZO の専用(BTS 型)物流施設として「プロロジスパークつくば 1-A」「プロロジスパークつくば 1-B」「プロロジスパークつくば 2」の 3 棟の施設を開発しています。「プロロジスパークつくば 3」は、「ZOZOBASE つくば 3」として、これらの既存施設と合わせて株式会社 ZOZO のファッション EC 配送における基幹拠点のひとつとなる予定です。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム

https://f.msgs.jp/webapp/form/11859_dor_73/index.do